



窓シャッター

主として戸建住宅及び集合住宅の開口部にサッシやドアと併設される雨戸として使用されており、用途によるバリエーションとしてクローズタイプ、スリットタイプなどがあります。

窓シャッターの概要

・防犯性能の高い(CP)窓シャッターの例

<シャッターカーテン構造>

スラットに補強等を組み込んで、切り破りにくい構造となっている。

<抜け止め構造>

スラット端部が抜けにくい構造となっている。



<錠構造(電動式)>

ブレーキ付などの電動開閉機構となっている。

<錠構造(手動式)>

最下部に座板錠、中間に4点以上のロック機構となっている。

<CPラベル貼付例>

シャッターカーテンの下端などにCPラベルを貼付



窓シャッターのバリエーション

窓シャッターには、用途によって、主に下記のバリエーションがあります。



クローズタイプ (電動式、手動式)

スラットが連結されており、通風採光用の穴がないもの。



スリットタイプ (電動式)

スラットの中に小孔があいており、シャッターが降りていても、通風採光ができるもの。
※但し、小穴が全て閉じた「全閉」の状態では防犯機能が確保されません。

【抵抗時間】

侵入者がスラットや座板のこじ開けや切り破りなどの行為を開始してから建物内部に侵入が可能になるまでの時間を「抵抗時間」と呼び、各商品ごとに定められた試験を行い、抵抗時間が5分間以上であることを確認されたものが「防犯性能の高い建物部品」(CP製品)として目録公表されています。

【付帯条件】

施錠状態の窓又はドアと併用すること。

※目録掲載の各製品については、各社にお問い合わせください。

※ただし、目録掲載製品の内、「アイシン精機(株) ABS01/ABS02/ABS11/防犯ブラインドシャッター」「オйлレスECO(株) サンシャディSB/窓用ブラインドシャッター」については、単体で5分以上の抵抗時間を示した製品であることから、上記<付帯条件>は適用されず、開放状態の窓又はドアとの併用も可とする。

※ ご注意

CP製品は、客観的に評価された防犯性能を有する製品ですが、侵入を完全に防ぐものではありません。従って、侵入犯罪による物品の損害も同様に損害賠償の対象とはなりません。